

科目番号	21	科目名	文学と地域		
英文科目名					
大学・短期大学名	滋賀文教短期			大学	
連絡先	滋賀文教短期大学 学務課 教務係				
	TEL :	0749-63-5815	FAX :	0749-65-1921	
担当教員	吉田 大輔		(国文学科 講師)		
実施方法	対面授業		遠隔授業 対面・遠隔併用		
教室名	本館4階 404教室	会場	滋賀文教短期大学		
授業期間	2024 年 9 月 16 日 月 ~ 2024 年 12 月 23 日 (月) <毎週 月曜日> 1 時限・講時 9 : 05 ~ 10 : 35				
超過時の選考方法					
成績評価方法	定期試験 (筆記)				%
	レポート試験 (期末)	50			%
	平常点 (出席・授業態度)				%
	その他 (口頭発表)	35			%
	その他 (コメントシート)	15			%
別途負担費用	なし		あり(テキスト代 1,936)円		
その他特記事項	<p><授業形態> 新型コロナウイルスの拡大状況により、対面授業が遠隔授業に切り替わる可能性があります。</p> <p><欠席連絡> 欠席連絡については、滋賀文教短期大学 学務課教務係(0749-63-5815)までご連絡ください。</p> <p><その他> 授業で毎回書いてもらうコメントシート、発表、期末レポートにより、成績は評価します。 口頭発表の資料の作り方は、授業中に指示します。 レポートは、希望者にフィードバックを行います。</p>				
<講義概要・到達目標>					
【講義概要】					
<p>本授業「文学と地域」では、現代につながる「大阪」イメージの成立を文学作品から考えてみたいと思います。具体的には、半年間の時間を使い、織田作之助(1913~1947)という作家の作品を集中的に読みます。織田作之助は大阪生まれの作家で、作品の舞台の多くは関西です。また、その作中では、関西の言葉が生き生きと描かれています。東京中心の文学の世界に、関西という舞台設定と関西の言葉を駆使して対抗する、こうした明確な戦略のもとに登場したのが織田作之助でした。彼の作品に描かれる関西像からは、関西という場所と関西の言葉に対する愛憎半ばする態度が読み取れます。また、現在われわれが抱く大阪へのイメージにつながる描写が見いだせるだけでなく、逆にそうしたイメージを裏切る描写も見出すことができます。彼の作品が提示する「大阪」像の意味をこの授業では考えてみましょう。</p> <p>織田作之助がデビュー作「ひとりすまう」(1938)以降、関西を描くことで文壇に進出していった時代的背景として、「大大阪(だいおおさか)時代」と呼ばれた状況が挙げられます。1923年に関東大震災が起り、関東が大きな打撃を受けると、関東から関西へ移住する人間が増大し、1925年から1932年までの間は、大阪市は日本でもっとも人口が多い都市でした。こうした時代状況も踏まえ、作品を読み解いていきます。</p> <p>さらに、大阪と対比的なイメージとして、東京のイメージ、京都のイメージ、神戸のイメージなどにも授業のなかで言及することになると思います。</p> <p>授業ではまず、織田作之助の小説の代表作「夫婦善哉」と評論「可能性の文学」を教員の講義によって読み解きます(第2回~第5回)。そのうえで、初回に決めた担当作品に従い、受講者に簡単な発表してもらいながら、毎回1つの作品を取り上げていく予定です(第6回~第15回)。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1、織田作之助の打ち出す「関西」イメージの戦略が客観的に理解できるようになる 2、短編小説から自分なりの問題を抽出し、資料を作成し、発表できるようになる 3、授業を踏まえて自分なりの問題を抽出し、小説についての論理的なレポートが書けるようになる 					
<授業スケジュール>					
回	月日	テーマ・キーワード			
1	9 月 16 日	授業ガイダンス、大阪のイメージと織田作之助というについての説明、発表作品を決める			
2	9 月 23 日	「夫婦善哉」を読む①(法善寺横丁というトピ)			
3	9 月 30 日	「夫婦善哉」を読む②(食べ物と「やつし」)			

4	10月7日	「夫婦善哉」を読む③(「大阪の言葉」と「言葉の大阪」)
5	10月14日	評論「可能性の文学」を読む
6	10月21日	受講生発表「六白金星」+議論+教員による解説
7	10月28日	受講生発表「船場の娘」+議論+教員による解説
8	11月4日	受講生発表「放浪」+議論+教員による解説
9	11月11日	受講生発表「世相」+議論+教員による解説
10	11月18日	受講生発表「子守唄」+議論+教員による解説
11	11月25日	受講生発表「競馬」+議論+教員による解説
12	12月2日	受講生発表「アド・バルーン」+議論+教員による解説
13	12月9日	受講生発表「俗臭」+議論+教員による解説
14	12月16日	受講生発表「聴雨」+議論+教員による解説
15	12月23日	受講生発表「木の都」+議論++教員による解説+授業のまとめ

<教科書・参考書>

<教科書>

- ①織田作之助『夫婦善哉 正統他十二編』(岩波文庫)1001円
- ②織田作之助『六白金星・可能性の文学他十一編』(岩波文庫)935円
すでに持っているという人以外は、2冊とも必ず購入してください。どちらも使います。

<参考書>

- ①『織田作之助全集』全8巻(講談社、1970)
- ②橋爪節也『大大阪イメージ:増殖するマンモス/モダン都市の幻像』(創元社、2007)
- ③『大阪文学名作選』(講談社文芸文庫、2011)
- ④尾崎名津子『織田作之助論 〈大阪〉表象という戦略』(和泉書院、2016)
- ⑤井上章一『関西人の正体』(朝日文庫、2016)
- ⑥斎藤理生『小説家 織田作之助』(阪大出版会、2020)
- ⑦原武史『「民都」大阪対「帝都」東京 思想としての関西私鉄』(講談社学術文庫、2020)

※そのほか、授業中に適宜指示します。